

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	UICC TNM 第 8 版の臨床病期は Siewert typell/III 癌患者の予後を層別化できるか？
	研究目的	食道胃接合部 (AEG) は日本も含め、全世界で増加傾向にあります。また、西洋諸国では術前化学療法施行例が増加し、以前より臨床分類の重要性が増してきました。2017 年、全米総合癌情報ネットワーク (NCCN) より第 8 版 TM 分類が発行され、臨床病期分類システムが新たに定義されました。最近、この臨床病期分類は、胃癌 (GC) 患者の予後を予測すると報告されました。一方で、一般的な GC とは異なり、AEG の腺癌の診断と治療には議論の余地があります。その臨床診断が予後を反映するか検証した研究は現時点でない。 この研究の目的は、Siewert タイプ II/III 腫瘍患者の予後が臨床病期分類システムによって適切に層別化されているかどうかを明らかにする。
	研究対象者	1986 年 1 月から 2014 年 12 月までに当院において Siewert typell/III 食道胃接合部腺癌と診断され、根治的胃切除または食道切除を受けた症例 196 例を対象とする。術前補助化学療法施行例は除外する。
	研究期間	西暦 2020 年 5 月 25 日 ~ 西暦 2021 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	渡邊勇人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし